

特集①

2000年・新ミレニアムを生きる……

150億年の過去の光に、未来の夢を託して!

世界一の“すばる”プロジェクトをすすめる—
宮下暁彦さん(67回)へ、ネット・インタビュー



△ひげ面の宮下さん

A 小学校の頃、人工衛星が打ち上げられ、夕方よく見ていました。中学に入つてすぐに部分日食があつたりして興味がでてきました。それまでは昆虫少年で、立石山で蝶々ばかり追つかけていました。中学生の時に、ジャコビ二流星群で流れ星がたくさん見えるから、興味のあるヤツは集まれと、教頭でアマチュア天文家の今井正明先生がおっしゃって、校庭で夜を明かしたのが“夜遊び”的始まりでした。



△ハワイ・マウナケア山頂の‘すばる’ドーム

諏訪は伝統的に天文の活動が盛んでありました。清陵高校では、太陽の黒点のスケッチをしよつちやうつていきました。午前中の方が空気の

Q 清陵高校の天文部での思い出は?

A 小学校の頃、人工衛星が打ち上げられ、夕方よく見ていました。中学に入つてすぐに部分日食があつたりして興味がでてきました。それまでは昆虫少年で、立石山で蝶々ばかり追つかけていました。中学生の時に、ジャコ

ビ二流星群で流れ星がたくさん見えるから、興味のあるヤツは集まれと、教頭でアマチュア天文家の今井正明先生がおっしゃって、校庭で夜を明かしたのが“夜遊び”的始まりでした。

昆虫少年が、清陵では授業を抜け出し、太陽の「黒点観測」ばかりに熱中!

宇宙への夢、星のロマン…。少年・少女時代にいちどは憧れた大宇宙への旅。150億光年の彼方にいる過去の光を求めて、先端技術を駆使しながら挑戦し続ける男たちの一人・宮下暁彦さんに、同じく67回生の守矢早苗さんが、インターネットでのインタビューを試みました。いま活躍する清陵人たちの、ミレニアム・メッセージです。なお、宮下さんは、故宮下琢郎先生の息子さんです。

状態がいいといわれ、授業を抜け出したりしてやりました。先生によつては、「晴れたから、いつていいよ」といわれ、ドームに行くと、たいてい部員の誰かが、授業をさぼつて「はや弁」食つたりしてました。

A 高校でも、浪人している時も相変わらず大して勉強せず、星を見たりしていました。その頃、池谷・関彗星と

いう大彗星がやってきて、霧ヶ峰に行つて見ました。東の空から黄道光と、

彗星の長い尾がだんだん昇ってきて、

すごい光景でした。これ以上感動した

光景はその後も出会つていません。そ

んな頃、東京天文台(現・国立天文

台)が技官を探りたいと牛山正雄先生

を通じて誘われました。ついぶん迷つ

たんですが、そこで働く決心をしました。

遠征費の足しにさせてもらいました。

天候もあまりよくはなかつたんです

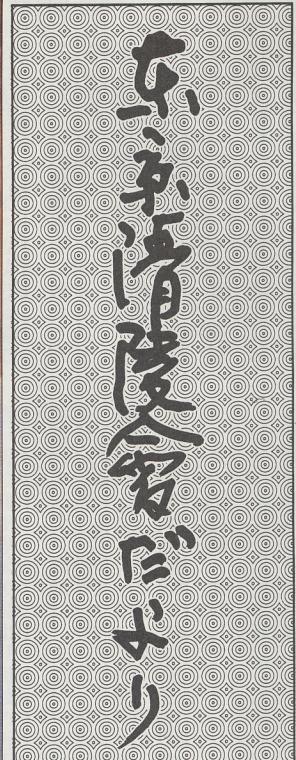
が、未熟さと緊張で大した観測もでき

なかつたことを覚えてます。

測光部という部門で働くことになつたんですが、ここは、夜天光という分野の研究をしているところでした。夜

天光というのは三種類の光源の総称で、「大気光」と呼ばれる地球上層大気の分子・原子の発光現象、太陽系内のダストが太陽光を散乱して見える「黄道光」、それからもっと遠距離の星や星雲の集積光で「星野光」と呼ばれ

るもので、測光部の部長は、旧制諏



第11号

編集・発行人
東京清陵会
(諏訪清陵高等学校同窓会)
東京支部
会長 寺島 敏郎
事務局 TEL 120-0005
足立区綾瀬2-31-7
(株)小野包装 気付
TEL 03-5680-7633
FAX 03-5680-7665
E-mail: tseiryo@papiacargo.co.jp

Q 諏訪の天文台での仕事の内容やエピソードなどありますか?

働きながら……



△ネットで話す守矢早苗さん

2000年度・東京清陵会・定期総会のご案内

日 時

平成12年10月20日(金) 午後6時~午後8時30分
(午後5時から受付け開始)

場 所

アルカディア市ヶ谷(私学会館) 3F「富士の間」
東京都千代田区九段北4-2-29 (TEL 03-3261-9921)
市ヶ谷駅(JR, 地下鉄有楽町線, 南北線, 都営新宿線)
下車, 徒歩2分

議 題

- ①1999年度会務・決算報告
- ③役員改選
- ②2000年度事業計画・予算案
- ④その他

懇親会 会費 8000円(在学の大学生は半額)

- 演し物 67回生の「玄人社長素人劇団」演ずる『雖千万人吾往矣』の即興。
- 当番幹事 67回生(次期幹事68回生、サブ幹事77、87回生)ご面倒ですが出席・欠席いずれの場合でも同封の返信用ハガキにご記入のうえ、9月28日に必着するようご返送下さい。

湖を渡れなかつたりと、大変な旅でした。三年間の研磨で完成した後、ハワイまで無事に着いてくれると祈るような気持ちで、ヒロ（ハワイ島）に帰つてきました。

部さんもかけつけ対応しました。結果、工事再開までに三ヶ月、ドーム内の煤の清掃などにその後一年かかり、ドームの竣工は約一年の遅れがでてしました。煤の清掃は手作業で、作業員が山頂になれていないこともあり、高山病で次々倒れ、ヘリを呼んでの救出も何回かありました。今度また犠牲者でもたら計画は中止されてしまうとみんな対策に大わらわでした。

ピツツバーグの郊外の地下工場で磨かれていた主鏡は、一九九八年夏に完成しました。世界一大きな単一鏡で、研磨精度も凹凸○・○○○○一mmと世界一です。八mの鏡を関東平野へくらいに拡大しても、そこでこぼこが○・一mmくらい、紙一枚の厚さ以下のなめらかさに磨いたといつたら想像できるでしょうか。私も研磨工場に行き、天文台

Q 宇宙には、果てがあるのですか…?
A むずかしい質問ですね。すばるは一五〇億光年彼方の光を捉えられるくらいの性能を目指し、現在それを達成できるよう調整中です。ビッグバン直後の光を捉えようとする訳です。遠く見るといふのは、宇宙の始まりを見ることになります。たとえれば、果てがあるといふのは水平線を見るようなもの

Q 次世代の子どもたちに伝えたいたいことは？

A 日本の若い人の「理科離れ」が問題になつていると聞きます。自然科学に関連した仕事も地味ですが結構おもしろいですよといいたいです。子どもたちにはもつと自然に親しみ、観察する眼と時間をもつてほしいし、私たちは自然破壊をしないことが大事だと思っています。町中で星がほとんど見えないのは、ネオンサインなど光害の影響です。ヒロは人口五万人の、ハイでは大都会ですが、ネオンサインは全く見かけません。街灯も全部傘が付き、上に光を出さないし、しかも、天文観測のじやまにならない低圧ナトリウム灯です。役所も住民も山頂の天文台に協力しているわけです。先輩青

Q 最後に、"すばる"にかける夢は?

A すばるでは、これから人類が今まで見たことのない遠方まで観測することができるでしょうし、地球のようない可能になるなど、いろいろ新しい発見があると期待しています。

たくさんの税金を使って建設したんですから、これからは、成果を出してお返していく義務があると思っていきます。清陵の時に百円ずつカンパしてもらったのを思い出して、今度は国民もんですから、失敗は許されないぞって、いつも思っていました。

岩波映画で記録映画を撮つてもらつていましたが、一年ほど前に倒産したので、仕事は前から一緒にやっていた人たちのところへ続けることになりました。撮影もすっかり終わり、今編集に入っています。今泉プロデューサーの発案で、まず子どもたち用を編集し、この夏に全国のいくつかの小学校の校



▲検討の末、ドームは球形から円筒形へ。

(1ページの背景写真は、ファーストライトで「すばる」がとらえた、一五〇〇光年かなたのオリオン星雲)

アースト
一五〇〇

から来ている光学の専門家たちの最終検査のお手伝いや、岩波映画の撮影、多くの新聞社の取材に対応しました。ハワイに帰つて待つこと三ヶ月、主鏡がミシシッピー川を船で下り、パナ

で、その向う側は見えないのです。太陽系の果てについていえば、肉眼では土星までしか見えなかつたわけですが、望遠鏡が発明されて、天王星、海王星、冥王星と発見されました。最近

木正博先生を中心とした二十数年前の、七島八島の自然保護運動や、「日本星空を守る会」の運動は、大事だと思ったなと今も時々、思います。私たち達陵人も「霧の子孫たち」ですから、

る計画が進んでいます。昔、巡回映画で岩波映画の「佐久間ダム」建設記録を見たのを思い出し、大賛成しました。小学校選びは、すばるの建設に関わった天文台のスタッフの出身校で、ついで講演もやろうと。プロジェクトを引つ張つてきた小平前台長、海部台長（前ハワイ観測所長）、われわれ技術者などが二〇カ所くらいで、南は鹿児島県から北は青森県まで散らばっています。私は八月二十二日に高島小学校で行いました。

特集②

清陵、清陵人たちの今昔

—20～80代まで、寄稿にみる「わが伝統史」

熱き八十代からのメッセージ

中島 彦吉 (38回)



▲平成12年4月、同期会にて

私たち三十八回生は昭和七年入学、十二年の卒業、大正八九年の生まれ。現在八十歳代に入ったところである。今年平成十二年四月、アルカディア市ヶ谷で東京清陵会の同期会を開催した。案内状送付者は二十七名、馳せ参じたのは写真の十名で、久しぶりの邂逅とあつて初めは緊張気味であったが、次第に打ち溶けて話題に花が咲いた。ちなみに氏名を記すと、前列左から吉沢佐賀利、中島彦吉（筆者）、北原文雄（幹事）、矢ヶ崎孝雄（幹事）前田時太郎。後列左から武川忠一、岩波吉郎、小松雅雄、藤森鉄雄、名川文敏の諸君である。いずれもそれぞれの職域において然るべき功績を残してき

た。案内状送付者は二十七名、馳せ参じたのは写真の十名で、久しぶりの邂逅とあつて初めは緊張気味であったが、次第に打ち溶けて話題に花が咲いた。ちなみに氏名を記すと、前列左から吉沢佐賀利、中島彦吉（筆者）、北原文雄（幹事）、矢ヶ崎孝雄（幹事）前田時太郎。後列左から武川忠一、岩波吉郎、小松雅雄、藤森鉄雄、名川文敏の諸君である。いずれもそれぞれの

た面々である。

次に在学中の想い出を思いつくままに記す。名物教師と謳われた恩師には、デンキさと親しまれ顎ひげをしごいていた牛山伝造先生、教科書は墓場と喝破され独自の授業を展開された三沢勝衛先生、皮帶の代りに三尺を締め

いた牛山伝造先生、教科書は墓場と喝破され独自の授業を展開された三沢勝衛先生、皮帶の代りに三尺を締め

いた牛山伝造先生、教科書は墓場と喝破され独自の授業を展開された三沢勝衛先生、皮帶の代りに三尺を締め雄先生等。授業の雰囲気が彷彿とする。中でも特記したいのは、著名な旧制高校の寮歌を上級生がカラマラに放吟する、それを受けて下級生が見習つて覚えてこやかに語られた河西健児先生、

同期の一年生で初めての談論会に登壇したのは武井房幸君、論題は「奮え、国民」だった。非常時の叫びが高まってきたころで、その熱弁は私たちの視野が既に国家・国際的な広がりを見せていたことを示すものだった。

諏訪湖一周マラソンには懸命の参加だった。私たち一年生の中で、一等は藤田嘉幸君、全校では二十六着だった。一着は三年生の浜さんだったと記憶する。これらのことと想起できるのも、行事の印象が強烈だったことを物語るものである。

さて、中学生活を謳歌する中、その後の人生の展開にさまざまなかたちとなっていることがある。それは出身町村ごとに結成されていた会のことである。記憶を辿ると（間違っていたらゴメン）上諏訪は高島学生団、岡谷は交和会、親友会、下諏訪は黎明会、中洲は卯の花会、長地は硯友会、山浦・

いまむかし
清陵、清陵人たちの今昔

南誠は合同して山浦健児団、私の川岸は見龍会と称していた。

この会が出身小学校を根柢に定期的な会合をもち、下級生は上級生に発破をかけられ、叱咤激励を受け、上下の交流が深まった。バスケット、バレーボール、テニスなどの運動や、夜は試胆会でしごかれることもあった。蓼科でキャンプを張つたこともあった。

必要であるが、時には時代の変化を読み取つた上で、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきだと思う。

『東京清陵会だより』第七号に有賀博（26回）が「新しい清陵歌を作つてみ取つた上で、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきだと思う。

『東京清陵会だより』第七号に有賀博（26回）が「新しい清陵歌を作つてみ取つた上で、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきと思う。

▲記念すべき撮影失敗作

親友会員は旗の下に集まつた
小口 登（45回）

清陵高校に関する書物からは自治、運動部、獨特な伝統行事などの記事が読み取られ、清陵の伝統には、礼讚と苦笑が盛り沢山であつて時々陶酔する。陶

醉とは別に諏訪人は理屈っぽい、頑固で柔軟性がない、社交的でない、島国根性で排他的など自己嫌悪に陥るとの感想もあり無視できない。礼讚と自己嫌悪のいずれも諏訪の風土や清陵の伝統によつて培われたものであろう。他の多くの異質の伝統の中で働いてきた

私たの感想から述べさせてもらつならば、卒業生は伝統に心から酔うことも必要であるが、時には時代の変化を読むことによって、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきだと思う。

『東京清陵会だより』第七号に有賀博（26回）が「新しい清陵歌を作つてみ取つた上で、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきと思う。

▲記念すべき撮影失敗作

親友会員は旗の下に集まつた
小口 登（45回）

清陵高校に関する書物からは自治、運動部、獨特な伝統行事などの記事が読み取られ、清陵の伝統には、礼讚と苦笑が盛り沢山であつて時々陶酔する。陶

醉とは別に諏訪人は理屈っぽい、頑固で柔軟性がない、社交的でない、島国根性で排他的など自己嫌悪に陥るとの感想もあり無視できない。礼讚と自己嫌悪のいずれも諏訪の風土や清陵の伝統によつて培われたものであろう。他の多くの異質の伝統の中で働いてきた

私たの感想から述べさせてもらつならば、卒業生は伝統に心から酔うことも必要であるが、時には時代の変化を読むことによって、後輩のために伝統の軌道修正の可否を検討すべきと思う。

▲記念すべき撮影失敗作



▲河西和彦さん

現在はこの旗の下に親友会OB会が毎年開催され、先輩と後輩の間で文字通り親友の交わりが行われている。親友会には親友会歌こそなかつたが親友会旗があつたので今日でもその旗の下に集まつてゐる。象徴的記念物は無言であるが、伝統の継承には力強い。

マメでズクのある人間に…

河西 和彦 (52回)

卒業して四八年になる。いま思えば私たち五二回生と高校になつて入学した五二回生とが合流し、いろいろな体験を重ねた結果、多彩な人材が輩出したことのようだ。五二回生は旧制諏訪中学校の最後の入学者であり、入学したとたんに六・三・三制の学制改革で各市町村に新制中学ができるために翌年から入学者がなく、在学六年間のうち高校一年までの四年間を最下級生を体験するという珍しい経験がマメな人間形成に大きな影響を与えたと思う。特に思い出すのは高校になつて木造モルタルの新築校舎(いまは取り壊していない)にも入ることなく諏訪中学時代の木造ボロ校舎で清陵時代を終わつたので現在の校舎を見ると隔世の感がある。経済優先、物に恵まれた現代にあ頃の質実剛健、勤勉努力の精神を私が

今も持ち続け、上諏訪の昔のままのボロ家に独り住む老母の介護に千葉県から九年も毎週通い続けていられるのもあのボロ校舎の影響かもしれない。

諏訪中学時代からの「諏訪湖一周マラソン」「談論会」「端艇大会」；清陵高校になつてからの「清陵祭」など一応すべて体験しているが、頑張り精神を育てたのはなんと言つても「諏訪湖一周マラソン」である。

在学中に三回も組み替えをしたので

クラス会でなく同期会として異能集団の結束は堅い。昭和六三年六月に二つ

の回生が合体して常に活動しているので会名を「双樹会」と名付けるとともに

最近では双樹会の活動は頻繁になり、地元の有志は七日会と称して毎月

七日に上諏訪の鳥梅で、在京の有志は第三月曜に東京駅近くの小林誠三君(旧姓有賀)の扇寿司に集まり旧交を

温めている。

「環境が人を育てる」と言われるが、いま思うと諏訪ことばで「ズクのある人間」になつたのは諏訪中・清陵時代の貴重な体験によるものであると確信するようになつた。

そのような状況の中で、昭和二十七年頃から清陵でも平和への関心が高まっていた。この時期平和問題といえば

原水爆問題に象徴されていたが、昭和三十二年には、それまで社会部員を主

体とする一部有志の「原水爆問題研究会(原水研)」によつて行なわれていた

研究について、学友会として初めて清陵祭のメインテーマとして取り上げたのである。これによつて、清陵における原水爆問題に対する認識や関心が急速に高まつた。

清陵祭での成功をベースに、研究の継続と発展を図るために学友会として公式に取り組むことが効果的である

のである。この手冊の発行でさらずに、中には二葉高生とのゴーリキン組は十四%とのデータもある。この

冊子の発行でさらずに結果が強まつた。

その年の秋、同窓会の東京支部総会の幹事を担当した。このときの出し物

にビデオで母校や故郷の風物、史跡の変遷を紹介した「唐沢山に秋長けて」を上映して大好評であった。この手作

りビデオも人材には事欠かず、監督と

シナリオは当時の岩波映画の諏訪淳君、番組作りのベテランでテレビ朝日

に居た笠原哲次君、大学教授が娘を連

下にあり、昭和三十二年には既に原水

公的機関として創設することを

提議した。

私の在校当時、世界は東西冷戦構造

で十分、政治的活動をする過激な高

校としてイメージダウン、高校生の分

を越えている、就職に不利に作用する等々かなり激しい議論もあったが、私は提案理由説明者として質疑を正面か

ら受け止め存分に論議したため、総会

は二時間近くを要した。

結果として圧倒的多数で承認され、九

月の原水委正式発足に当つて私が学友

会副会長兼任で初代委員長に就任した。

非公式な部分では、不成功に終つた

ものの「長野県高校生連合」結成の計

画など若干政治的意図による動きもあ

つたが、校内的には原水研による着実

で真摯な取り組みとレベルの高い研究

成果が評価され、校内世論の支持を得

たことが総会での承認につながつたも

のである。十一月には原水爆禁止全校

大会、十二月には原水委の第一回研究

発表会を開催、また研究報告書として

『原子雲』を創刊するなど、原水委は

順調にスタートした。

平和問題などのように政治的影響を

受け易いことは、学校側としてはと

り分け敏感に拒絶反応を示す中であつて、清陵では完全に生徒による自治が許容されていた。

高校生連合結成の動きのようなケー

スはともあれ、学校側は私達の自由な

活動を規制するようなことは全くしなかつた。原水研の活動、清陵祭のメイ

ンテーマに取り上げたこと、そして原

水委の創設とその後の活動など、私達

は自治の精神で全く自由に研究し、發

言し、結果を発表し、他高校との情報交

「原水委」の誕生

長門 肇 (62回)

私は昭和三十二年四月から一年間、学友会副会長の任にあつたが、学友会活動を通じて自治の精神を学び、その重さと責任の大きさを痛感させられた。

学友会活動における自治の中でも象徴的なことの一つとして「原水爆問題研究特別委員会(原水委)」を学友会の

研究特別委員会として創設したことであるが、その経緯を述べることとする。

私の在校当時、世界は東西冷戦構造



▲長門 肇さん

れて久しぶりに故郷の諏訪に帰るシリオ設定で、これには本物の某国立大学教授の林尚孝君に主演男優になつてもらつた。あまりの好評に同窓会も動きだし、翌年の校舍新築記念の祝賀会用に、若い後輩にも興味をもつて見てもらえるようにと、更に新校舎や現役

生徒のイベントの映像を加えたもう一本の手作りビデオ映画を作成、これも好評で二本併せて一千三百本の注文に

私たち幹事は大いに気をよくした。

最近では双樹会の活動は頻繁にな

り、地元の有志は七日会と称して毎月

七日に上諏訪の鳥梅で、在京の有志は

第三月曜に東京駅近くの小林誠三君(旧姓有賀)の扇寿司に集まり旧交を

温めている。

「環境が人を育てる」と言われるが、

いま思うと諏訪ことばで「ズクのあ

る人間」になつたのは諏訪中・清陵時

代の貴重な体験によるものであると確

信するようになつた。

環境が人を育てる」と言われるが、

いま思うと諏訪ことばで「ズクのあ

る人間」になつたのは諏訪中・清陵時

代の貴重な体験によるものであると確

信するようになつた。

換をしたのである。こうした自治の精神や学校と生徒との強い信頼関係の在り方は、私の生き方やものの考え方には強い影響を与えたことは間違いない。

また、学友会活動や原水爆問題との関りは、様々な事象に対する問題意識や科学的で合理的な分析力や洞察力を高めてくれたが、それ等が後に金融マントとしての私の仕事に役立つことは言うまでもない。

清陵は今にしてなお私の精神の原点であり、清陵の最も清陵らしい伝統は自治の精神であって、それが多くの人材を育てたことも間違いない。

清陵時代を思い出すと、今なお血湧き肉躍る思いがするのであり、清陵生であったことを誇りに思うのである。

特別寄稿

あの煌めいていた時

諏訪二葉高校昭和39年卒
三輪 聰子(旧姓 北沢さと)

上諏訪の駅を出て、右に曲がると左側の歩道は二葉生、右側に清陵生と決められたように通学していた。当時、私は「信濃境」から、D51の汽車に乗り一

時間以上かけて二葉高校まで通っていた。寒い季節になつても清陵生の素足に高下駄、肩から斜めにかけたズックのカバン姿が今でも目に浮かんできます。私の身内にも、父をはじめ七人の清陵OB生がいますので、上京してから

か仲間のように思えてしまうのです。

二葉高校の正門までの、あの急な坂

(当時は大根坂と呼ばれていた) を登

高めてくれたが、それ等が後に金融マントとしての私の仕事に役立つことは言うまでもない。

学生生活は、奇しくも三年に一度ある二葉祭が私の三年生の時にあたり、当時生徒会の運動委員長をしていた私は、レクレーションの担当だったと記憶していますが、とにかく清陵祭と日程が重なつてしまつた事を覚えていました。清陵の生徒会の役員の方々にお願いし、話し合いで変更していただき、その後、私共の生徒会との交流が始ま

りました。

清陵の屋上で、レコードプレーヤーをかけフォークダンス講習会と称して、集合して練習をしたり、お茶とお菓子でおしゃべりをしたり、お互いに受験勉強の合間、ホットと気を抜ける時間だったようになります。今の時代について夜を徹して語り合っているうちに白々とした朝になり、青空が見えたかも? 知れません。しかし三十七年前の話ですでの何とも…。その日、

あの夢も希望も心いっぱい持つてい

た高校生活の思い出は、三十七年過ぎ



▲二葉の三輪聰子さん

「弁論喪失事件」のこと

春山 明哲 (68回)

清陵の「門なき校門」を初めてぐつたのが昭和37年、15歳の時だから、それから40年近い歳月が流れたことに

なる。あのころの「今」も、もうすっかり昔のことになり、懐かしい情景が点滅するばかりである。と、その中から

「封印」したはずのある記憶が疼きの感覚とともに蘇ってきた。

3年生の清陵祭の時、クラス対抗の弁論大会があり、自信満々弁士を引受けたものの、なかなか想がまとまらない。苦吟しているうちに當日になつてしまい、窮屈した僕は学友会長だった藤森照信君(現在東大教授、建築史家)

に相談した。彼は「いかにして自分は弁論を喪失したか」を語るしかないといふ。結局僕は、後輩と弁論テーマに

ついて夜を徹して語り合っているうちに白々とした朝になり、青空が見えたかも?

驚いたものである。自慢話ついでだ

が、松本蟻ヶ崎高校の文化祭・弁論大

会で「幸福について」語ったこともあ

る。幸福とは究極的には心の平安がも

き、郷愁に似た不思議な魅力を感じさせてくれます。そのせいかどうかわからませんが、現在の私は田舎の民家を描き続けた日本画家の、故向井潤吉氏のアトリエ館に勤務し、毎日その絵の中にいるのです。

つた地蔵寺の手前の校舎は、洋風な昔ながらの女学校であつて、私の大のお姉さんに入りの風景でした。

「談論会」は明治32年の学友会創立とともに始まり、清陵の校風である自

治の伝統と直接に結びついている、と

審査員のひとりであつた担任の伊藤先

生の眼鏡が見えたことを憶えている。

清陵の百年」にある。僕は議論、討

論の類が好きで、この伝統ある談論会

にもしばしば登場していたから、あい

つを弁士にということになつたのだろう。今にして思えばこの期待と自分の

自信過剰がプレッシャーになり、それ

に押しつぶされたのだ。

私にとっての清陵でのクラブ活動の

思い出は、バドミントン部でひたすら

シャトルを打ち、走つたということで

す。清陵に入学したものの、小学校六

年生のときに心臓手術を受け、体力的

に高校での生活に不安を持つていま

す。もっとも、新入生の私にとって清

陵のクラブ活動はすべて目新しく、放

送委員会やフォークソング同好会など

にチヨツカイを出してはいました。

富士見出身の小林典彦君、五味清高

君、小淵沢出身の進藤勇君らを誘つて

バドミントン部に入部したのは清陵祭

が終わつたころだつたように記憶して

います。清陵祭で模範演技や二葉高校

との親善試合をみた私は、先輩たちの

動き、白いシャトルがラケットに当た

った時の体育館を突き抜けるような音

が印象的でした。またスマッシュのス

ピード、緩急自在のシャトルコントロ

ールの妙技に感心していました。

二年生になると、三年生が受験で現

役引退ということで、一年生全員でも



▲春山明哲さん

清陵とわがバドミントン

有賀 一温 (75回)

現の場が沢山あつた。学友会誌「清陵」もそのひとつで、硬派の論壇といつた趣があった。「核時代の戦争と平和」などという大テーマで初めて論文

らしきものを書いた。岩波講座「現代」と雑誌「世界」だけが下敷きのも

のだったが、何年も経つてから、ウシ

マサ(牛山正雄先生)から、宮坂広作

さん(50回)が誉めてくださつていた

よ、と言われて喜ぶとともに、先輩が

学友会誌にまで眼を通していることに

驚いたものである。自慢話ついでだ

が、松本蟻ヶ崎高校の文化祭・弁論大

会で「幸福について」語ったこともあ

る。幸福とは究極的には心の平安がも

六人という部員でインターハイ出場を目指して練習の明け暮れでした。一年生の新入部員のうち女子が二名入ったことで、なんとなく明るい雰囲気がありましたものの、私たちは一年生に自分たちがやつてきたいつもランニングをさせていました。しかし、二年生である私たちはもつときつい練習をはじめました。それまでランニングは立石までだつたのが、次には立石の帰りに手長神社の階段を走り抜けるという気の遠くなるような練習でした。さらに、夏を過ぎると毎日下社までの往復十二キロのマラソンでした。このメニューも二年生の私たちが決めたメニューでした。合宿所での合宿の際に一人一人の走破距離目標を決め（私は百キロ）みんなが着々とこなしていました。私は何とか目標をクリアできましたが、そのときの喜びは大変大きなものでした。このハードトレーニングによつて清陵バドミントン部は二年生の登竜門である長野県の新人戦で完全優勝することができました。ダブルスでは清陵同士での決勝でした。

した。また、おもむろにノートを開いて「ダブルスのフォーメーションのパターン」を研究していました。この結果として新人戦の優勝をもたらしました

ハードトレーニングもさることながら、上から与えられたことをこなすのではなく、自分たちでバドミントンの研究をすることこそが清陵バドミントン部の伝統であつたように思います。私はとつての清陵時代は、まさに「自由」をそのまま具現していたバドミントン狂時代だつたよう思います。

アフター安保の世代から

三井 夏海（79回）

も二年生の私たちが決めたメニューでした。合宿所での合宿の際に一人一人の走破距離目標を決め（私は百キロ）みんなが着々とこなしていました。私は何とか目標をクリアできましたが、そのときの喜びは大変大きなものでした。このハードトレーニングによつて清陵バドミントン部は二年生の登竜門である長野県の新人戦で完全優勝する

ことができました。ダブルスでは清陵
司士での決勝でした。

同二での決勝でしか

かりませんが、当時はバドミントン部に直接二指揮官の監督つゝはコ

を直接に指揮する監督あるいは二・チ
といった人はなく、あくまで自分たち

で練習メニューをつくり、技術は「先

輩のアドバイス】—バドミントン教則本—「テレビで放映される国際試合—

から得て いました。 テレビを見た私た

ちは往復の列車の中で「あのフォーメーションはいい」「あのラケットの握り方がいい」とか、「そんな話ばかりで

「研究」と「ハードトレーニング」が結果として新人戦の優勝をもたらしたと思います。

ハードトレーニングもさることながら、上から与えられたことをこなすのではなく、自分たちでバドミントンの研究をすることこそが清陵バドミントン部の伝統であつたように思います。私にとっての清陵時代は、まさに「自主品牌」をそのまま具現していたバドミントン狂時代だったようになります。

アフター安保の世代から

三井 夏海（79回）

確かに私が小学校六年の頃だつたと思う。テレビのニュースに清陵の卒業式の模様が映し出された。ヘルメット姿の生徒が壇上に上がり、何やら叫んでおり、式は中断したようであった。「えれえ学校だ」と思つた。

数年後、入学試験の日、上諏訪駅から生徒たちの流れに沿つて坂を上がっていくと、丘の上のほうに立派なコンクリートの校舎が見える。うわさではボロ校舎だと聞いていたが、「なんだ、きれいな学校じゃないか」と思つていたのも束の間、突然、生徒たちの流れは右に折れる。「あへ、でた！ やっぱり！」うわさは本当だつた。木造の薄汚れた建物、校門は無い！ 「えれえ学校だ！」

中に入ると、これまた一段と汚い。床は油ぞうきん（今の床ワックスとは

私が清陵の「無き」門をくぐったのは昭和四八年（一九七三年）、あの浅間山荘事件の翌年であり、学生運動もすでにピークを越えていた。我々の世代はいわゆる「安保後」の世代で、一方では左翼運動の流れが残り、上諏訪駅前でビラ配りをする生徒もわざわざがらいた。他方、経済的には豊かな時代が到来しつつあり、シラケの世代へと移り行く過渡期でもあつた。

巷では若者が世俗的な自由を謳歌しており、その流れは清陵の中にも確実に浸透してきていた。フォーケソングが流行り、清陵祭やコンパンでも相変わらず「青い山脈」や他の替え歌などが歌われる一方で、「吉田拓郎」や「かぐや姫」が幅をきかせ、自由の精神は軟派なものになつてきた。我々の学年は二五〇人中女子は二〇人しかおらずまだ男子校の趣であつた。文武両道、質实剛健、千萬人といえども吾往かん……とはいえ隣の二葉は氣にかかる。夏秋の体育はマラソンと決まっていて、走つている途中で二葉のわきを通ると必ず叫ぶ奴がいる。さぞかしうるさかつたと思うが、後に二葉の卒業生に聞くと、彼女たちも慣れていたようだ。

どうも我々の世代は伝統的な部分とて、「ダブルスのフォーメーションのパートーン」を研究していました。この

世俗的な部分が入り混じった中途半端な時代だったようだ。それでも東京にきて同時代の人に清陵の話をすれば皆驚く。都会はもっとシラケていたのだ。また自分でかなり穏やかに話しているつもりでも、「おまえは理屈ぱい」とも言われる。やつぱり「えれ

「端艇大会」の思い出

毎年の九月、今でも端艇大会は行なわれていることと思う。私が参加した端艇大会は、九二回目と九三回目であつた。そんなに続いているのかと、改めても驚かざる。

初めてオールに触れたのは、二年生のときだった。この年の端艇大会は、学友会の流会が続き、一度は中止となつた。しかし当時の三年生を中心に、自分たちの代だけ端艇大会を中止にするわけにはいかないという同志が集まつた。

三五の沿岸祭の比^二ことな三
時の会長が言つたのを、今でも記憶し
ている。「伝統は自分たちで作つてい
くもの。自分たちが今実行しているこ
とが、伝統になっていく。先輩の方のさ
れてきたことをそのまま真似ればいい
というものではない」

り、登校時間に校門の前の坂で署名募集活動を行っていた。この時、流会続きでうんざりしていた人の中には、署名しないものもいたかと思う。私もその一人だった。しかし、その署名により臨時に学友会が召集され、結果、端艇大会も開催されたわけである。ただし、ナツクルフォアに関しては男女混合と

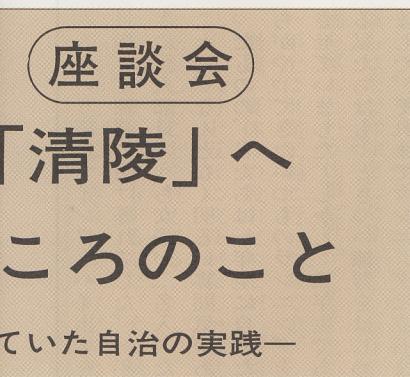
いう、縮小した大会になつた。クラスで選手を決めるときに、開催が決まつ

たのなら、それはそれで協力しよう」と

思つた私は、署名をしなかつたにもかわらず、選手として参加させてもらつた。腕相撲をしたら勝つてしまつた。



▲女子端盤部も誕生して…



出席者

牛山精一（49回）

柿澤重喜（50回）
岩波裕治（51回）
大谷溥（52回）

司会 今日は「清陵いまむかし（今昔）」というテーマで特集をしていますが、この一環として、ちょうど大きな歴史的転換期にありました終戦前後のことをお話しただけたらと思つておられます。

●旧制中学から新制高校へ

司会 最初に「新旧学年制」ということで、六・三・三制への移行に伴うもろもろのことをお話下さいませんか。

牛山 ちょうど私も49回生がその境目で、旧制中学の最後で、五年を終えて次が新制高校の三年生に切り替わつていつたわけです。

大谷 私たちは昭和二十一年に諏中へ一年生として入ったんですが、富士見の農業学校へいった人とか、小学校高等科へいった人とか、新制中学に統合されて清陵の一年生でまた一緒になつた。

岩波 六・三・三制というのは昭和二十三年から始まっているんです。昭和二十二年にわれわれは併設中学（いまでいう高等学校付属中学）の三年だつたわけです。

山田 諏訪中学というのは、同窓会

名簿を入学時で数えているんです。普通の学校はだいたい卒業時で、新制中学から進学した55回と、旧制中学から進級した52回は卒業期でいうと同じなんです。

柿澤 学制の変更も一覧表に書かな

いとちょっとわかりにくいですね。

柿澤 人数の点でいいますと、毎年二百二十人入ってるんですが、いまの名簿では三百数十名になつてゐるわけで、その分は疎開してこられた人や軍などの学校が廃止となり転校してこれられた人たちが入つてゐるんです。

司会 大まかにはこういうことです

寺島 寺島 ぎゅうぎゅう詰めの教室

柿澤 だから学年中たいてい顔見知りになるというメリットもあつたかも

がつたといふことで、メリット、デメ

リット両方ありましたね（笑）。

岩波 当時一学期たつたあとでクラス替えをして、その一年を過ごすといふかたちだつたけれど、入つて五月、六月になると疎開をしてくる方が

けです。

山田 諏訪中学というのは、同窓会

で糾弾されるとかね。

牛山 それで全校生を集め

る。あれは体操場だったかな。

牛山 一年生から四年生まで

は座つて、頭下げっぱなし。五

年生だけ周りで棒なんかもつて

あります。

柿澤 入学時、二百二十名を四クラ

スですから、一クラス五十五名なわけ

です。それが、三百六十七名という疎

開のピークのときは五クラスになつ

た。机の間がすんなり通れないで、ズ

ボンなんかが引っかかるってかぎ裂きに

なるとか、ぎゅう詰めで授業をやつて

られた人たちが入つてゐるんです。

柿澤 だまかにはこういうことです

ね。（一覧表参照）

寺島 新制中学から來た人と、旧制

中学から移行してきた人と、疎開組と

いう、この三つが錯綜してゐるわけ

で、それぞれがまた違つた思いをもつ

てゐるわけです。そのへんで、旧制の

封建制度と同じような階級制度が残つ

ていたわけです。都會の者は英語がす

ごくできるわけで、いわゆる東京組の

壁といふものは、地元にとつてはすご

い。英語ができる、何ができるといつ

てね。だからじめたわけじゃない

の目をもつて壁をつくるわけです

（笑）。洋服はきちんと着いているのに靴を履

いてくるとかね。見えないバリアをお

互いにつくりながら三年間過ごしたわ

けです。

山田 諏訪中学といふのは、同窓会

で糾弾されるとかね。

牛山 それで全校生を集め

る。あれは体操場だったかな。

牛山 一年生から四年生まで

は座つて、頭下げっぱなし。五

年生だけ周りで棒なんかもつて

多くなつて、一クラス七十名くらいになつた。だから机がないんです。机と机の間に椅子を置いて、椅子だけで授業を受けるという……。

柿澤 入学時、二百二十名を四クラス

なつた。だから机がないんです。机と机の間に椅子を置いて、一緒に机の間がすんなり通れないで、ズボンなんかが引っかかるってかぎ裂きに

なるとか、ぎゅう詰めで授業をやつて

られた人たちが入つてゐるんです。

柿澤 だまかにはこういうことです

ね。（一覧表参照）

寺島 新制中学から來た人と、旧制

中学から移行してきた人と、疎開組と

いう、この三つが錯綜してゐるわけ

で、それぞれがまた違つた思いをもつ

てゐるわけです。そのへんで、旧制の

封建制度と同じような階級制度が残つ

ていたわけです。都會の者は英語がす

ごくできるわけで、いわゆる東京組の

壁といふものは、地元にとつてはすご

い。英語ができる、何ができるといつ

てね。だからじめたわけじゃない

の目をもつて壁をつくるわけです

（笑）。洋服はきちんと着いているのに靴を履

いてくるとかね。見えないバリアをお

互いにつくりながら三年間過ごしたわ

けです。

山田 諏訪中学といふのは、同窓会

で糾弾されるとかね。

牛山 それで全校生を集め

る。あれは体操場だったかな。

牛山 一年生から四年生まで

は座つて、頭下げっぱなし。五

年生だけ周りで棒なんかもつて

万ぐらの人口の地域で、あの中に大きくなつた。だから机がないんです。机と机の間に椅子を置いて、椅子だけで授業を受けるという……。

柿澤 ボートのオールでドーンと叩

きく分けて地域ブロックがありまし

た。北山浦健児団とか、南山浦は南諏

会とか、上諏訪は高島学生団とか、いくつかに分かれていた。そこのグルー

ープは、ときどきは上級生に、矯風会が

あつたあとは呼びつけられて、一緒に机の間がすんなり通れないで、ズボンなんかが引っかかるってかぎ裂きに

怒鳴りつけられるとか、試胆会をやら

さるとかいろいろありましたから、浮き上がつてしまつた人もいると思

ます。

柿澤 矯風といふのは、風紀委員会みたいなものだつた。

寺島 五年生が主宰する一種の風紀委員会みたいなものです。

柿澤 矯風といふのは、風紀委員会みたいなものです。（笑）。

寺島 五年生が主宰する一種の風紀委員会みたいなものです。

柿澤 矯風といふのは、風紀委員会みたいなものです。（笑）。

寺島 映画館なんかいっちゃんで

を矯める、直すという意味の会だ

だというので「矯風会」といつたんですね。

山田 映画館なんかいっちゃんで

を矯める、直すという意味の会だ

だというので「矯風会」といつたんですね。

岩波 汽車通のときは、前二両が中学で、後ろ二両が女学校

という、決まつてるというか、慣習になつてた。それを後

ろに乗つたっていうので矯風会で糾弾されるとかね。

寺島 それで全校生を集め

る。あれは体操場だったかな。

牛山 一年生から四年生まで

は座つて、頭下げっぱなし。五

年生だけ周りで棒なんかもつて

（笑）。

柿澤 ボートのオールでドーンと叩いて脅かすんです。頭を上げるとぶん殴られちゃうから、みんな頭を上げないわけです。

岩波 たしか最初二時間くらい頭を下げてお説教をされて、そのあとちょ

こつと休みがあつて、それで罪状を読み上げて、「どこどこで何々したやつは出てこい！」って（笑）。

柿澤 たとえば「都座に映画をみいたやつがいるから出てこい！」といつたやつがいるから出てこい！」と

か、いろいろなことをいふんです。

岩波 そうすると、上級生がオールをドンドン、ドンドンと叩いて脅かすわけです。

寺島 固有名詞はいわないけれど

か、出でこい！」って（笑）。

柿澤 たとえば「都座に映画をみ

いたやつがいるから出てこい！」といつたやつがいるから出てこい！」と

か、いろいろなことをいふんです。

岩波 そうすると、上級生がオール

をドンドン、ドンドンと叩いて脅かす

わけです。

新旧学年制一覧表							
年度	48	49	50	51	52	55	56
昭17	中1						
18	2	中1					
19	3	2	中1				
20	4	3	2	中1			
21	5	4	3	2	中1		
22		5	4	3	2	(中2)	
23		高3	高2	高1	2	(中3)	
24				3	2	(中2)	
25					3	(中3)	
26						高1	2
27						2	3
入学(人)	220	220	220	220	220	91	306
在籍(人)	310	361	367	373	260		

入学者数は推定・中=旧制諏訪中学校・併=併設中学校・(中)=新制中学校・高=諏訪清陵高校

帰りますね。それで茅野で下りて歩いていかなきやいけない。歩いて鬼場あたりにいくと、そこから林の中に連れ込まれてまた同じことをやられる（笑）。終わるころはもう十二時を回つてるんですよ。

「これはきっと帳面についているに違いない」というんで、出ていくものもいる。実際にどういう制裁を受けたのか、竹刀でぶん殴られたとかいろいろあるんだけど、定かじゃない。ただ非常におつかない一日だったです。

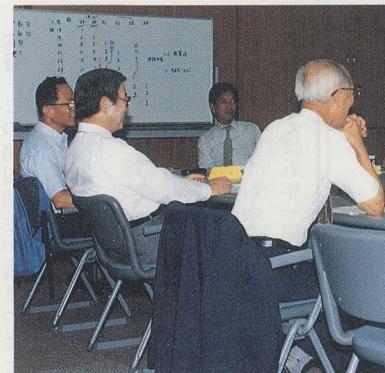
ある日突然掲示板に「本日矯風会。体操場に何時集合」と書いてあって、五年生が下級生の帰り道を全部ふさいじやう。だから帰れない。

柿澤 矯風会が終わって、夜遅くなつて、私は北山ですからいちばん奥へ帰りますね。それで茅野で下りて歩いて歩いてなかなかきやハナない。歩いて鬼場あ

特集 3

「諏中」から あの日、あの

—GHQを凌駕し



山田卓三（5回）

寺島敏郎(50回)

言会

寺 島 敏 郎 (50回)
司 会
野 明 慎 (67回)

点で「教育委員会」という制度を入れてきたわけです。それまで各学校の校長は学校独自で選んでもいいんだという風潮が長野県の教育界の中にあつたわけですが、GHQが干渉してきて、各学校の校長などの任命を県が一手に握るという形をつくってきた。だから、多少は矯風会というようなものに対する締め付けのようなものはあつたかも知れませんね。

山田 うんと大まかなものはあつたわけです。奉安殿、忠魂碑や諫訪中学では飛行機、グライダーもいけない。エンジンがついていなくとも許可にならなかつたわけで、GHQから「全部破棄」というのがくるわけです。

しかし学生というものはそんなに変えられないから、服装はとにかく、これまでの伝統をずっと続けていた。学生のルールとか自治もそのままで、たとえば諫訪中学では学友会を開くときも学友会が決めて、会長が教務へいくと許可になる、というようなかたちがずっと受け継がれていた。細かいことは相当地自由裁量があつたわけで、伝統というものは結構残つていつた。たとえば「雖千万人吾往矣」なんていうのは、英訛されていかつたのか、引つかかつてこなかつた。本当は引つかずつと受け継がれていた。

かるはずなんですがずっと残つてきて

いふのがおもしろい

寺島 でもあれは孟子だつたか、中
国の古典だからね。

受け継いだときに、GHQから学友会を

受け継いだときに、GHQから学友会の会長、副会長、それに顧問の矢沢先

生の三人が長野へ集められて「生徒会は本来生徒の自治会的なものでなきや

いうつもりは全然なかつた。「生徒自

一つの組織として生徒会というものが
あるべきだ」というような話をされた

んだけれども、われわれはそんなことは当たり前という感じだった。

牛山 私が入学したときに、先輩か
ら諏中の校風というのを「質朴剛健」

「勤勉努力」、最後に「自治」と。そのころ配属将校がきておりましたし、そ

れとは別に憲兵なんていうのも時々きてたらしくですが、それで「自治とま

なんだ」ということを学友会長が聞いた
つわられた。説明したんだナビゲーション

てもわかつてくれない。「それは自由じゃないか。一と、つれどもうん

す。わたしらのころは靴も履かない
、真冬の下駄が裸足、それで通う

「實木岡傳」への手のひら。一三三三

でしょ。あの古い体育館で一年生が平気で上級生にまじつてバスケットを

やめてたしないですが十分くらいいの間、球に一回もさわれなくとも、一

年生から五年生までが休み時間に一つ

の球でみんなで遊ぶわけです。そうすると、帰りに必ず足にトゲが刺さつてゐるんです（笑）。窓ガラスはないから風は吹いてくるし、だから、校風といふやうな形でちゃんと説明するといふ状況でしたね。

岩波 僕は中洲の卯の花会で、みんな歩いて通っていた。一学期の終わり通知簿をもらつわけですね。途中に五年生が待つていて、「きょうもらつてきた通知簿をみんなここへ出せ」と。それで通知簿を一つ一つチェックして、「おまえは、これはまあまあいいけれども、これはなんだ」と注意する。それから「これからわからないことがあつたときは、上級生に遠慮なく聞いていい。これから勉強というのは俺たちがみてやつていく。これが諱中の伝統だ」と（笑）。いや、これはええとこへ来ちやつたなと思つてね。

柿澤 旧制と新制の間のいちばん混乱したときに困つたのは社会の先生なんです。当時は「時事」といつてましたけど。私たちは昭和十九年に入つて二十年に戦争に負けましたが、その負ける三日前まで岡谷の海洋道場で絞られてたんですね。松本中学に負けるなどいうんで、軍事教練でさんざん絞られて、帰ってきて三日たつたら戦争に負けちゃつた。そんなときに時事の堀川先生が、「民主主義とは檻の中の全力活動だ。」というわけです。それで私が「それじや、熊と同じじゃないですか」といったんですけど、生徒にわかるよ



山田卓三氏(55回)

山田 結局、生徒の断絶がないから、何も切れてない。ただ禁止事項だけが除かれ、伝統がそのままずっとなんです。

寺島 いま山田さんがおっしゃったように、切れてるという感覚がまったくないから、旧制をどうわれわれが新制で受け継いでいるかなんていう自覚もなかつた(笑)。

岩波 ごく自然ですよね。ただわれわれが一年に入ったときに学友会長をみて「すごい親父さんがいるな」という印象で、四年生、五年生というのは近寄りがたい存在だったけれども、そのあたりの感覚というのは昭和二二、二三、二四年あたりになると少し変わってきた。たとえば地方会で会長が話をするとわれわれはかしこまつて聞くが、下級生になると、多少そのへんの壁というのがなくなってきたという感じだったね。

寺島 いちばん変わったのは、上級生が来たら三十メートル前から敬礼して、三十メートル行つちやうまで下ろせないというの、終戦と同時に帽子を取つてお辞儀することになつた。

山田 それから六月一日の夏冬の切り替えとか、もうきちんとしてたんで今までやつてた。

山田 それから六月一日の夏冬の切り替えとか、もうきちんとしてたんで今までやつてた。

●男女共学への転換
司会 共学はいつから始まつたのですか。

大谷 五六回生で女子生徒が十四人いました。女性軍にいわせると、二级上の先輩はまだ顔を見るけど、一级上の先輩は「私たちの顔をまともにみられない人が多かつた」というんです。

岩波 三年の岩波さんたちは、二级下に女子の子が入つてきたからちょっと余裕があつたんでしょう。われわれは初めてみるもんだから、みんなそれこそ三十メートル前から横を向いて……(笑)。

岩波 これは学友会の一つの力じやなかつたかと思うんだけど、先生のほうから「女子の生徒を入れていいかどうかをみんなで話し合つてくれ」と学友会に下ろしてきました。よくよく調べてみると、もうその時点ではGHQの方針で女性を入れなきやいけないというのがきていたんですが、たとえ形のうえであつても、学友会に下ろして、みんなで討論して賛否を取つたんです。それで賛成が少し多かつたんを入れることになつたんです。

大谷 われわれのころは女生徒だけのたまり場の部屋があつたりしたんですね。あのころはそんなことはまったくなかつたです。

柿澤 今は女性の学友会長だつて珍しくない。

●選手を特別視しない運動部

岩波 われわれ諏訪中学からの大き

すよ。帽子には白い覆いをつけるし、上着のこれを霜降りみたいなやつに替える。ああいうのが順々になくなつていきましたね。

な伝統のもう一つは運動部。これは一般化といいまして、他の学校は選手が決まってたわけですが、諏訪清陵では運動については「選手も部員も全部平等だ」という考え方。だから、球技大会やるときも学年に分けてやるのじゃなくて全部でやるという、そういうものをそのまま受け継いでいたと思う。

●男女共学への転換
司会 共学はいつから始まつたのですか。

大谷 五六回生で女子生徒が十四人いました。女性軍にいわせると、二级上の先輩はまだ顔を見るけど、一级上の先輩は「私たちの顔をまともにみられない人が多かつた」というんです。

岩波 バレーは全日本かなんかで優勝したことがありましたね。

寺島 バレー、バスケットも県で優勝したことがありました。

岩波 バレーは全日本かなんかで優勝したことあります。

●校歌への熱い思い
大谷 この年代の人気が知つてゐる範囲では、東日本籠球大会とか。そう、笑つちやうんだけど、排球というのがバレーで、籠球がバスケットで、庭球がテニス。あのころたしか人気があつたというんだけど、ほんとかね。伝説の秀才なんだけど。

柿澤 伝統ということでいうと、第二校歌というのは今の在校生にはわかるんですけど。あんなむずかしい語句を並べた校歌というのは漢文を習つていた時代の人はいいとして、今の時代にね。

寺島 中島喜久平さんが一晩で書いたというんだけど、ほんとかね。伝説の秀才なんだけど。

岩波 あれはどうしても第一校歌の一番から歌つていくと、そのまま第二校歌につながつちやうんだね。

大谷 二番から歌えといわれるところに入つて、清陵が強かつたのが、バレーとバスケットですよね。だけど清陵は、さつき岩波さんがおっしゃつたように、一般化という方針なんで、絶対に選手を特別視しない。

寺島 いま野球部が長野県で指折りの中に入つてゐるらしいが、われわれのころはそんなことはまったくなかつたですね。

柿澤 あのころは金がなかつた。練習ボールも十分あつたわけじゃないで

司会 一時、野球部はなくなつちゃうんですね。

寺島 僕らのころ、学友会で「野球部なんか予算やらねえ」と、いつて切られは確かだが、意味が今の学生に

つけやつたんだ(笑)。何しろ、評判

悪くてね。あんな不良にやることはねえと。

柿澤 というか、今ほどスポーツを重要視していかなかつたのかもしけな

い。あのころ、松商学園とかが長野県じやダントツ強かつたわけだで、野球

が強い学校というのはだいたい決まつていて、ほかのところはかないっこな

いと思っていた。遊びでやつてゐるだ

けで、甲子園に出るつもりでやつてゐるわけじゃないから。

柿澤 第三校歌でもつくらないと、

今、あれを女子学生が歌つてることを想像すると、なんかびんとこないだろ

うなと思うね(笑)。

柿澤 第三校歌でもつくらないと、

今、あれを女子学生が歌つてることを想像すると、なんかびんとこないだろ

うなと思うね(笑)。

柿澤 伝統といふことでいうと、第

二校歌といふのは今の在校生にはわかるんですけど。あんなむずかしい語句を並べた校歌というのは漢文を習つていた時代の人はいいとして、今の時代にね。

寺島 中島喜久平さんが一晩で書いたというんだけど、ほんとかね。伝説の秀才なんだけど。

岩波 あれはどうしても第一校歌の一番から歌つていくと、そのまま第二

校歌につながつちやうんだね。

大谷 最後に後輩たちに一言お願ひします。

柿澤 むしろこれからのこといでいえば、今テレビで「ようこそ先輩」という番組があるでしょう。あんな有名人が行く必要はないけど、やっぱり清陵に思

いがあつた先輩たちが生徒にメッセージを送り、それを受け取るという機会があつて、清陵の新しい時代の伝統と

してつくつていければいいと思います。

岩波 来年はわれわれが卒業して五十年になるわけよ。それで記念行事に

何をするかというのを、これから新宿で飲みながら話をしようということになつています(笑)。

柿澤 長い間ありがとうございました。

寺島 だからみんな第二校歌のほうが好きなんだ。

柿澤 韻律がいいんでしようね。そ

れは確かに、意味が今の学生に

…。

寺島 校歌は地方会の上級生かなん

かに教わつたと思うんだ。学校じゃ絶対教えなかつた。ところが、最近は先

生が教えてみんな歌わないと

…。

柿澤 第三校歌でもつくらないと、

今、あれを女子学生が歌つてることを想像すると、なんかびんとこないだろ

うなと思うね(笑)。



大谷溥氏(52回)



野明悠氏(67回)

●特集①でご紹介した宮下さん以外にも同じ67回生で活躍されている仲間が大勢います。現役お二人の登場です。

放送技術つて?

NHK放送技術研究所 宮坂榮一(67回)



▲宮坂榮一さん

いよいよ今年一二月から、放送衛星(BS)を利用したハイビジョン放送が始まる。「BSデジタル放送」という。単にデジタル放送なら、すでに通信衛星(CS)を使ったデジタル放送がSky Perfect TVなどで行われている。しかし、BSデジタルでは、走査線が今

のテレビの倍以上である一二二五本と

それには、データ放送が新たに加わる。

これらはいずれも世界初である。民放

も含めると七チャンネルが予定されて

いる。小生の勤めているNHK技研の

先達が、三〇年前に細々と始めた研究

がやっと日の目をみることになった。

このようすに研究が花開くには、実に

長い年月がかかる。その間、ほとんど

茨の道と言つて良い。完成までの試作

機にはやたらと欠点があるため、周り

は、それを容赦なく攻撃する。曰く

「こんなものにつぎ込むのは、金をド

ブに捨てるようなものだ!」。その批

判たるや尋常ではない。研究者は、じつと我慢する。必ず、そういう時代が来るとの信念があるからだ。批判するほど楽なことはない。しかし、耐えきれないなかた人は研究を断念して去つて

いる。現在、当技研には二七五名の研究者

がいる。小生も、3K職場と言わ

れる研究職場で、すでに二十数年も勤

務している。新しいモノを創造する喜

びに惑わされてのことかと思う。

デジタル化になると、テレビも限りなくコンピュータに近くなり、いわゆる情報格差(デジタルデバイド)がどう

なく見捨てられる危険がでてくる。テレ

ビを含め情報家電機器はほとんど、若

んどん広がる。このままでは、高齢者

は見捨てられる危険がでてくる。テレ

ビの向けに設計されている。NHKに

も、お年よりから「話しが早すぎ

て聞き取れない。何とかしてくれ」、

という苦情が、多数寄せられている。

そこで当技研では、一〇年前から、

「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

そこで当技研では、一〇年前から、「ひとにやさしい放送」というキヤッ

チフレーズで、お年寄りや障害のある

方にもやさしい放送の研究をスタート

した。その一つが、高品質リアルタイ

ム話速変換器である。テレビやラジオ

のアナンウサーなどの音声スピードが

早いと感じたときに、声の高さや品質

を劣化させることなく、視聴者が、自

分の好みの遅さにリアルタイムで変え

事ができる代物である。音量の調整

ができる。これは、外国話を聞くときにも大変便利である。BS1

では、外国のニュースを毎日放送して

いるが、ちょっと早すぎるかな、とい

うときにこれを使うのである。この機器の特徴は、ノーマルスピードの音声を、音の高さを変えることなく時間軸

を伸ばしている。従つて、外国語の音

声でつきもののリエゾンや脱落など

が、映像のスロー・モーションのよう

にゆっくりと聞き取れるので、リスニン

グにはもってこいというわけである。

NHK技研は、今年で七〇年を迎えた。イギリスBBCの研究所と共に世

界で最も古い放送技術の研究所となつた。将来の立体テレビの研究から、音

声認識や画像認識、超高精細表示が可能なデバイスの研究まで、幅広く研究

している。渋谷の放送センターからや

や離れた、世田谷の砧というところに

ある。年一回五月の末に、技研の研究

内容を分かりやすく公開展示する「技

研公開」を催している。今年はすでに

五四回を数えた。

も、政治不信、投票率低下等の問題が指摘されている。今のところ、議会制に替わりうる民主主義のシステムの確立した姿は見えていないが、議会制の在りようについて「市民との相互的関係」の観点から新たな考え方が始まっている。また、最近の国会の動きを身近で見ていると、いわゆる政策新人類といわれるグループが現れたり、国民の立場からの立法・政策提案を重視した議員が増加しており、代表機能を果たす生産型国会へ向けて、着実に進みつつあるように思われる。

国会の立法・行政監視等の機能強化のためには、「情報と分析」が不可欠である。機能的・生産型国会への歩みの中で、立法調査を通してサポートすることが私どもの任務であり、それは同時に国立国会図書館が負っている責務であるともいえよう。

特集②のつづき(7ページ下段より)

清陵・深志交歓会での出会い

馬場 民準(67回)

入学後しばらくして清陵深志交歓会があり、湖畔からバスで霧ヶ峰へ登りました。バスの中ではお互いに校歌を披露しましたが、清陵の連中は入学したての上シャイで、あの長い校歌を十分には歌いきれなかつたような。それでもげえろつぱらでは打ち解けて樂しく語らい、午後に清陵に戻る頃はすっかり友人同士でした。その中に新保哲彦君や清水良俊君がおりました。私が

指摘されている。今のところ、議会制に替わりうる民主主義のシステムの確立した姿は見えていないが、議会制の在りようについて「市民との相互的関係」の観点から新たな考え方が始まっている。また、最近の国会の動きを身近で見ていると、いわゆる政策新人類といわれるグループが現れたり、国民の立場からの立法・政策提案を重視した議員が増加しており、代表機能を果たす生産型国会へ向けて、着実に進みつつあるように思われる。

国会の立法・行政監視等の機能強化のためには、「情報と分析」が不可欠である。機能的・生産型国会への歩みの中で、立法調査を通してサポートすることが私どもの任務であり、それは同時に国立国会図書館が負っている責務であるともいえよう。

広丘あたりから続くぶどう畑に味見をしないこともなく、白々としてきた辺りを気にしながら一路松本へ。口数も少なくてくてくと足だけが前へ出ていく感じでした。女鳥羽川を渡つてからも方向が定まらず、ようやく松本城にたどり着き、後はなんとかあの坂を登つて深志に到着。朝の九時頃でした。新保君達が待つていてくれてほっとしました。

二年の時もほぼ同じメンバーで同じコースを十時間位かけて歩きました。親切なトラックの運転手さんがいて「どこまで行くだ？ 乗つてけ！」と声を掛けてくれましたが、感謝してお断りしました。体力だけは一番充実していました。

三年の時には新規メンバーを募り、わいわいがやがやと塙嶺越えにかかりましたが、突然雷と豪雨に見舞われ雨具の用意もない私たちはずぶぬれ状態で、おまけに小林公明君が足のマメを潰しズック靴は真っ赤。先行きが危ぶまれま

交歓会の写真を撮つたこともあり、深志のクラスのリーダーだった新保君とは交友関係が深まり、松本の丘のお宅へ伺い何やかと話したことがあります。

秋の蜻蛉祭には会いに行くとの約束もあり、名取省三君の音頭取りでクラ

スの有志七、八名で上諏訪駅を夜九時頃出発しました。まだ砂利道だった塙嶺から諏訪の湖と街の灯りを見て一服

(まだたばこは吸つてませんでしたよ、誰も)、下りは栗だなどと言ひながら暗い夜道を塙嶺へ。松本まであと二十kmという表示をみるとまだ半分かあ！ 広丘あたりから続くぶどう畑に味見をしないこともなく、白々としてきた辺りを気にしながら一路松本へ。口数も少なくてくてくと足だけが前へ出ていく感じでした。女鳥羽川を渡つてからも方向が定まらず、ようやく松本城にたどり着き、後はなんとかあの坂を登つて深志に到着。朝の九時頃でした。新保君達が待つていてくれてほっとしました。

それ以来米国一メキシコで勤務する新保君には会つていません。話をしないでくれるのは清水良俊君です。我がクラスから浜野孝雄、三沢広人両君と共に私は同志社大学で学ぶ事になりました。大津の日赤病室で多くの友人、先輩、後輩が病と闘う彼の枕元で愛唱歌を繰り返し、深志の校歌、清陵の校歌も病室に低く響いておりました。

清陵征樹さんはその後鹿児島大学に赴き、後輩が病と闘う彼の枕元で愛唱歌を繰り返し、深志の校歌、清陵の校歌も病室に低く響いておりました。清水征樹さんはその後鹿児島大学に赴き、後輩が病と闘う彼の枕元で愛唱歌を繰り返し、深志の校歌、清陵の校歌も病室に低く響いておりました。

この出会いが、その後の恐ろしい4年間の始まりでした。我ら三名は横の連絡もなく上洛し、サークルの登録をしたら、「なんだお前も！」という訳です。そこで浜野君の紹介で渾名も「どり」と呼ばれていた清水さんと初めてお目にかかりました。

清水さんは当時3回生、大学の寮の今僕にとっての高校生活

高林 智洋(99回)

このように高校時代のボート部生活を改めて振り返り、文章にまとめるところではないかと思います。

諏訪清陵という高校は、一般の高校論旨鋭く大学を追及するリーダーでしたが、サークルでは我々清陵三人組のアルバムには部活ごとの写真もありま

せんし、文集のよう改めて高校生活を振り返り、文章にまとめるという機会もありませんでした。

研究会が終ると酒を飲みに京都の華街へ繰り出し、底のない酒に付き合ふと、最初に思い出されるのがボート部での生活ではないでしょうか。

今年大学を卒業し、社会人となつた今、改めて高校時代というものを振り返ると、最初に思い出されるのがボート部での生活ではないでしょうか。

僕は高校、大学と七年間ボートとうスポーツをやってきました。大学と高校でのボートでは、レベルの面においても、競技に対する自分の考え方、取り組み方も違っていました。高校で

練習メニューを消化したというところから、自分の中に自信というものが発生し、大会などで他の高校の選手と競り合った時にその自信がボート自体のスピードに変わるといったものでした。

大学でのボートは、一ヶ月なら一ヶ月という期間の中で、これだけの技

術メニューを消化したというところから、自分の中に自信というものが発生し、大会などで他の高校の選手と競り合った時にその自信がボート自体のスピードに変わるといったものでした。

清陵・深志交歓会での出会い

馬場 民準(67回)

入学後しばらくして清陵深志交歓会があり、湖畔からバスで霧ヶ峰へ登りました。バスの中ではお互いに校歌を披露しましたが、清陵の連中は入学したての上シャイで、あの長い校歌を十分には歌いきれなかつたような。それでもげえろつぱらでは打ち解けて楽し

く語らい、午後に清陵に戻る頃はすっかり友人同士でした。その中に新保哲彦君や清水良俊君がおりました。私が

披露しましたが、清陵の連中は入学したての上シャイで、あの長い校歌を十分には歌いきれなかつたような。それでもげえろつぱらでは打ち解けて楽し

く語らい、午後に清陵に戻る頃はすっかり友人同士でした。その中に新保哲彦君や清水良俊君がおりました。私が

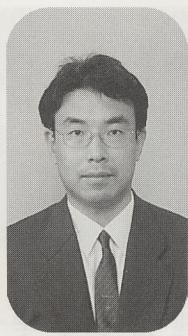
披露しましたが、清陵の連中は入学したての上シャイで、あの長い校歌を十分には歌いきれなかつ

術、体力を身につけるためには、一日一日何をしなければいけないのかといふことを考えながらやつっていました。このため、1日でのノルマというものが自分の中で発生し、プレッシャーが非常にありました。

高校でのボートは、ただ我武者羅にボートを漕いでいたなど今振り返るとそう思います。

しかし、ただ我武者羅にボートを漕いで高校生活が終わつたわけではありません。このようにボートを漕いでいた生活の中で得られたものがたくさんあります。それは、厳しい練習に耐えることができた自分に対する自信という、貴重なものを得ることができました。

またこの活動を通じて素晴らしい仲間たちに出会うこともできました。これらの高校生活で得たものが、社会に出た僕にとって非常にプラスになつていると思います。



▲折井千裕さん

哲学の学校

諷訪清陵

折井 千裕 (85回)

現代の社会では、すべてのものが相対性の渦の中でもしか意味や価値をもちえなくなつてきている。昨日まで眩しく輝いていたものが、今日、それを取巻く社会状況が著しく変化し、まつ

たく輝きを失つてしまつというケースは枚挙にいとまがない。

しかし一方で、そういう相対性の渦の中には決して飲み込まれれない絶対的で原初的な生命の輝きのようなものも依然として人間は誰しも先天的にもあわせている。この輝きこそが現代人が生きるうえで最も大きな原動力になります。この輝きこそが現代人が生きるうのではないだろうか。

私も東京の生活の中で類にもれず相対性の渦の中に飲みこまれ、自分の周りの状況に過敏になり、神経をすり減らしてきた。それに伴つて原初的な生命の輝きも薄れ、心身ともに衰弱していくのを感じた。しかし、生命の危機に陥るところまでに至つたことは未だない。というのも、それまでに必ず心理学でいうところの防衛機制的な作用が働く。それが私の場合、清陵生だった頃の野暮で原始的なできごとの数々を思い出すということなのである。

今でも残つてゐるだろうか。清陵生は色々な意味で鬱うなればならない時には俗称「民」なるものを跳ねる。数人から場合によつては数百人が肩を組み円陣を組んで「金色の民いざやいざ、大和民族いざやいざ…」と叫びながら跳ねるのである。新入生の私は、なんて前近代的で民族主義的な台詞なんだろうと頭の中で考えながら嫌々跳ねていた。また清陵祭の最終日にやつてきた人文地歴部のOBから大学受験で上京したときに慶應大学のキャンパスで他の清陵生三人と「民」を跳ねたという武勇伝を聞かされたときには、私はどこ

つてしまつた。しかしその直後、私のは精神の領域で否定された「民」は私の身体によって評価されることになる。

清陵祭の最後を飾るファイヤーストーム。その規模と内容は他校の追随を許さない。中央に櫓の組まれた校庭には予め消火栓から消防用ホースで大量の水が撒かれ、泥沼が演出される。辺りが暗くなる頃に清陵生がどううのよう泥のなかに湧き出してきて、まもなく櫓に火が放たれる。暫しどじょうたちは泥水と戯れ、狂喜乱舞する。

その光景はさながら、地球が形成されずつと以前の宇宙のカオスの状態を物語っているかのようであった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の

円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中で円陣が途切れたり、跳ねるリズムも

ばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意

味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという

極めて原始的ではあるが、現代の文明人が忘れていている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭く

て、野暮で、野蛮で、原始的な行事に

こそ相対性の渦に翻弄されて生きてい

る現代人が学ぶべき哲学が隠されてい

るような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、

一度の米国留学と当地での出来事、帰

国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く

人生の航跡の中で、様々な出会いと別れを物語り、弱者への共感を歌つた新

境地で、聴衆に感動を与えた。最後に

「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を

全員で歌い、その余韻の中に、講師の

真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安

堵感を味わった。

懇親会は、山田六一氏(35回)の音頭によるワインの乾杯で始まり、恒例

の校歌齊唱で午後六時に散会した。

坂久臣同窓会長(49回)からは同窓会活動状況の話、来賓の窪田孝美校長か

らは母校の近況に加え、近頃おとなし

い生徒が多くなり、自主自律の校風が

やや薄れてきているので、伝統を形成

してきた同窓生の支援を賜りたいとの

話があつた。

続いて松沢宏昭原支部長(57回)を

清陵の「民」であるとかファイヤーストームなど、一見すると野暮であつ

た。改選期に当り、全役員を再選し

て主要議事を終了した。最後に次年度

当番幹事の挨拶に続き、淵上良子副会長(57回)が、三〇〇人になんなんと

する盛況に謝意を述べ閉会した。

記念講演は、フォーカシンガーで信州豊南短期大学教授の三浦久氏(67回)の「今、伝えておきたいことがある」であった。自作のフォーカソングを随所に交えながら、自由な校風とよ

りが暗くなる頃に清陵生がどううのよう泥のなかに湧き出してきて、ま

もなく櫓に火が放たれる。暫しどじょうたちは泥水と戯れ、狂喜乱舞する。

その光景はさながら、地球が形成されずつと以前の宇宙のカオスの状態を

物語っているかのようであった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の

円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中

で円陣が途切れたり、跳ねるリズムも

ばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意

味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を

身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという

極めて原始的ではあるが、現代の文明

人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭く

て、野暮で、野蛮で、原始的な行事に

こそ相対性の渦に翻弄されて生きてい

る現代人が学ぶべき哲学が隠されてい

るような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、

一度の米国留学と当地での出来事、帰

国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く

人生の航跡の中で、様々な出会いと別

れを物語り、弱者への共感を歌つた新

境地で、聴衆に感動を与えた。最後に

「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を

全員で歌い、その余韻の中に、講師の

真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安

堵感を味わった。

懇親会は、山田六一氏(35回)の音頭によ

るワインの乾杯で始まり、恒例の校歌齊唱で午後六時に散会した。

坂久臣同窓会長(49回)からは同窓会活動状況の話、来賓の窪田孝美校長か

らは母校の近況に加え、近頃おとなし

い生徒が多くなり、自主自律の校風が

やや薄れてきているので、伝統を形成

してきた同窓生の支援を賜りたいとの

話があつた。

続いて松沢宏昭原支部長(57回)を

清陵の「民」であるとかファイヤーストームなど、一見すると野暮であつ

た。改選期に当り、全役員を再選し

て主要議事を終了した。最後に次年度

当番幹事の挨拶に続き、淵上良子副会長(57回)が、三〇〇人になんなんと

する盛況に謝意を述べ閉会した。

記念講演は、フォーカシンガーで信州豊南短期大学教授の三浦久氏(67回)

の「今、伝えておきたいことがある」であつた。自作のフォーカソングを随所に交えながら、自由な校風とよ

りが暗くなる頃に清陵生がどううのよう泥のなかに湧き出してきて、ま

もなく櫓に火が放たれる。暫しどじょうたちは泥水と戯れ、狂喜乱舞する。

その光景はさながら、地球が形成されずつと以前の宇宙のカオスの状態を

物語っているかのようであった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の

円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中

で円陣が途切れたり、跳ねるリズムも

ばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意

味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を

身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという

極めて原始的ではあるが、現代の文明

人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭く

て、野暮で、野蛮で、原始的な行事に

こそ相対性の渦に翻弄されて生きてい

る現代人が学ぶべき哲学が隠されてい

るような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、

一度の米国留学と当地での出来事、帰

国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く

人生の航跡の中で、様々な出会いと別

れを物語り、弱者への共感を歌つた新

境地で、聴衆に感動を与えた。最後に

「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を

全員で歌い、その余韻の中に、講師の

真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安

堵感を味わった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の

円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中

で円陣が途切れたり、跳ねるリズムも

ばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意

味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を

身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという

極めて原始的ではあるが、現代の文明

人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭く

て、野暮で、野蛮で、原始的な行事に

こそ相対性の渦に翻弄されて生きてい

る現代人が学ぶべき哲学が隠されてい

るような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、

一度の米国留学と当地での出来事、帰

国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く

人生の航跡の中で、様々な出会いと別れを物語り、弱者への共感を歌つた新境地で、聴衆に感動を与えた。最後に「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を全員で歌い、その余韻の中に、講師の真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安堵感を味わった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中で円陣が途切れたり、跳ねるリズムもばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという極めて原始的ではあるが、現代の文明人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭くて、野暮で、野蛮で、原始的な行事にこそ相対性の渦に翻弄されて生きている現代人が学ぶべき哲学が隠されている

ような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、一度の米国留学と当地での出来事、帰国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く人生の航跡の中で、様々な出会いと別れを物語り、弱者への共感を歌つた新境地で、聴衆に感動を与えた。最後に「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を全員で歌い、その余韻の中に、講師の真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安堵感を味わった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まるのである。一番外側の円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中で円陣が途切れたり、跳ねるリズムもばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという極めて原始的ではあるが、現代の文明人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭くて、野暮で、野蛮で、原始的な行事にこそ相対性の渦に翻弄されて生きている現代人が学ぶべき哲学が隠されている

ような気がしてならない。

き師よき友に囲まれた清陵高校時代、一度の米国留学と当地での出来事、帰国後の勉学、演奏活動とその中断、辰

野への帰郷、演奏活動の再開、と続く人生の航跡の中で、様々な出会いと別れを物語り、弱者への共感を歌つた新境地で、聴衆に感動を与えた。最後に「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」を全員で歌い、その余韻の中に、講師の真摯で飾らない人柄と、内にあるヒューマニズムを想い、同窓生としての安堵感を味わった。

そして、しばらくすると燃え盛る炎を中心にして三重ほどの円陣が組まれ、「民」が始まのである。一番外側の円陣はおそらく二百名近い人で構成されていていたであろう。初めのうちは途中で円陣が途切れたり、跳ねるリズムもばらばらであるが、次第に七百人近い人々の息が合つてくるのである。それ

はまさにカオスの中に一定の法則と秩序が生じてきた原始宇宙の光景そのものではなかつただろうか。

そのときの私は「民」という言葉だけでは捉えきれない非常に深い意味が隠されているにちがいない。そこ

で清陵生は「民」とかファイヤーストームという経験を通して宇宙との一体感を身体的に感受し、そこから原始的

な生命の輝きを取り戻していくという極めて原始的ではあるが、現代の文明人が忘れている生きる術を身体を

通して学んでいるのである。

連綿と続けられてきた清陵の古臭くて、野暮で、野蛮で、原始的な行事にこそ相対性の渦に翻弄されて生きている現代人が学ぶべき哲学が隠されている

ような気がしてならない。

■一九九九年会務報告

一九九九年

- 9・15 東京清陵会だより第十号三九
四九部発送

- 10・15 第三三回東京清陵会総会..

アルカディア市ヶ谷「富士の間」、

六六回生担当 二七四名出席。来賓..

宮坂久臣同窓会会長、窪田孝美校

長、有賀裕副会長、矢崎斉男氏。事

業報告、会計報告等承認され懇親会

を開催。寺島会長挨拶、小口楨三氏

発声による乾杯、矢崎猶重氏、小平

祐氏他による鏡割りが行われた。

出し物は特になかつたが、日本一長

い校歌をテープの伴奏にて斎唱した。

今年初めて現役大学生を招待し、五

名の参加があり、交流に一段の賑わ

いを見せた。

- 12・6 六七回生初顔合わせ..せい
りよう、二五名出席。

- 12・21 事務局打ち合わせ..小野包
装、三名出席。

二〇〇〇年

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

氏名	年次	逝去年月日
片倉 五郎	(21回)	2000. 5. 1
藤沢 健三	(23回)	1999. 1. 25
金子 金治郎	(26回)	1999. 5. 31
小林 直人	(27回)	1999. 4. 6
赤羽 貞次	(28回)	1999. 3. 6
北原 軍治	(28回)	1997. 12. 11
増沢 源七郎	(28回)	1999. 8. 12
後藤 倉美	(29回)	1998. 2. 17
浜 和克	(30回)	1998. 9. 28
池上 正治	(32回)	1998. 12. 7
増沢 三郎	(33回)	1997. 6. 20
中島 光男	(34回)	1998. 11. 24
笠原 昌次	(35回)	1999. 1. 19
神林 三男	(35回)	1998. 11. 28
浜 博臣	(35回)	1999. 4. 2
大島 清美	(36回)	1999. 5.
小口 嘉治	(36回)	1999. 5.
小林 公二	(36回)	1998. 10. 7
服部 勉	(36回)	1999. 2. 20
藤森 英治	(36回)	1999. 6. 5
藤森 久弥	(36回)	1999. 1. 31
堀田 幸孝	(36回)	1999. 11.
金子 佐十郎	(37回)	1999. 3. 30
笠原 剛	(38回)	2000. 2. 8
林 武	(38回)	1996. 10. 2
金子 光行	(39回)	1999. 10. 13
長田 和雄	(41回)	1997. 7. 24
増澤謙太郎	(41回)	2000. 8. 29
河西 了吾	(43回)	1998. 10. 28
中村 敏郎	(44回)	2000. 3. 1
安田 時雄	(44回)	2000. 3. 2
矢崎 守正	(45回)	1999. 9. 4
名取 麗	(47回)	1994. 6.
藤森 三平	(48回)	1999. 7. 16
北澤 龍郎	(50回)	2000. 6. 11
山口 豊	(50回)	1999. 10. 3
五味 孟治	(51回)	1995. 7. 6
岩波 一信	(52回)	1999. 1. 29
原田 充善	(52回)	2000. 3. 15
小川 哲二	(55回)	1999. 10. 5
加納 満和	(55回)	2000. 7. 17
矢島 信治	(55回)	1998. 12. 9
平出 勝誠	(56回)	1999. 6. 22
三井 健	(56回)	1998. 9. 30
矢崎 等	(56回)	1999. 12. 1
有賀 吉弘	(57回)	2000. 8. 1
宮島 千秋	(59回)	1998. 6. 4
田中 俊次	(60回)	1999. 4. 16
鮎澤 邦彦	(61回)	1999. 1. 13
田村 明智	(62回)	1996. 10. 31
小口 達雄	(63回)	1999. 11. 11
栗林 良次	(63回)	1998. 3. 20
降幡 健司	(63回)	2000. 1. 24
宮坂 昌輝	(63回)	1999. 4. 1

(事務局に連絡が入った方)

1・13 南信同窓連新年会..新宿
ラ・コンテ、二名出席。

1・22 第五回女性の集い..ホテル

新宿サンルート、二七名出席。

4・19 第一回編集会議..神田シテ

イホテル、一五名出席。

5・1 第二回編集会議..きんざい

セミナーハウス、八名出席。

5・10 南信同窓連正副会長会..新

宿ラコンテ、一名出席。

5・11 第三回編集会議..きんざい

セミナーハウス、八名出席。

6・19 第四回編集会議..神田シテ

イホテル、寺島会長以下十名出席。

5・29 南信同窓連理事会..日本教

育会館、一名出席。

6・26 第五回編集会議..神田シテ

本部同窓会常任幹事会及び幹

事会..清陵同窓会館、五名出席。

6・31 事務局打ち合わせ..小野包

装、四名出席。

7・3 常任幹事会..南青山会館、

日本教育会館、一名出席。

7・19 役員事務局打ち合わせ..菱

進不動産、五名出席。

8・8 幹事会..南青山会館、四三

1999年度収支決算報告

自1999年4月1日 至2000年3月31日 東京清陵会 (単位:円)

支出の部		収入の部			
科目	決算額	増減(-)	科目	決算額	増減(-)
総会費用	2,055,399	-344,601	総会年会費	2,000,000	-400,000
会議費用	175,282	-124,718	販賣年会費	862,800	-737,200
諸会費	25,000	-5,000	寄付金	60,000	10,000
通信費	962,719	262,719	利息	11,247	-18,753
印刷費	337,943	137,943	収入	446,309	446,309
事務費	386,595	-13,405	繰前	15,191,116	0
清陵会だより費用	729,659	-20,341			
事務用パソコン費用	231,599	-18,401			
予備費	0	-50,000			
次期繰越	13,667,276	-523,840			
合計	18,571,472	-699,644	合計	18,571,472	-699,644

2000年度事業計画

- 一、第三四回定期総会の開催..十月
二〇〇日(金)アルカディア市ヶ谷、六
七回生担当。サブ幹事七七、八七回生
名の参加があり、交流に一段の賑わ
いを見せた。
- 三、「第六回女性の集い」の開催。
四、東京清陵会ゴルフ会の開催。(九月)
五、常任幹事会及び幹事会の開催。
(1) 総会及び懇親会への出席。

2000年度収支予算

自2000年4月1日 至2001年3月31日 東京清陵会 (単位:円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
総会費用	2,080,000	総会年会費	2,000,000
会議費用	200,000	販賣年会費	1,600,000
諸会費	30,000	特別会費	80,000
通信費	900,000	寄付金	50,000
印刷費	300,000	利息	30,000
事務費	400,000	繰前	13,660,668
清陵会だより費用	750,000		
事務用パソコン費用	100,000		
予備費	50,000		
次期繰越	12,610,668	合計	17,420,668
合計	17,420,668	合計	17,420,668

- (1) その他の
(2) 長野県南信同窓連への出席。
(3) その他
八、その他
九、出席。
七、郷里同窓会関係団体への参加。
六、17 南信同窓連総会..虎ノ門パ
ストラル、二名出席。来賓窪田諒訪
いセミナーハウス、一〇名出席。
七、3 事務局打合せ..小野包装、
四名出席。
八、8 幹事会..南青山会館、
日本教育会館、一名出席。
九、出席。
七、3 常任幹事会..南青山会館、
四三、四名出席。
八、その他の
九、出席。
七、3 事務局打合せ..小野包装、
四名出席。
八、8 幹事会..南青山会館、
日本教育会館、一名出席。
九、出席。
七、3 常任幹事会及び幹事会への出席。
(2) 長野県南信同窓連への出席。
(3) その他